**当院で手術をお受けになった方へ**

当院では手術を受ける患者さんを安全かつ適切に麻酔管理することが求められており、患者さんの重症度や手術緊急度に応じた麻酔管理に努めております。新型コロナ肺炎感染対策のため従来と異なる体制が要求され、ある程度手術治療の優先度を考慮する必要が出ています。過去にない状況で実際に行われた手術の内容や患者さんの全身状態などの解析は今後の感染状況に適切に対応していくために重要と考えております。

【研究課題】

手術制限下で行われた手術症例特性の後ろ向き検討

※本研究は研究課題「周術期管理を理想的にする最適なパラメータの検討」の個別研究として実施されます。

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学医学部附属病院

　研究責任者 麻酔科・痛みセンター・助教　森主　絵美

担当業務　データ収集・匿名化・データ解析

【研究期間】

　2020年5月31日〜2021年12月31日

【対象となる方】

**2017年1月1日 ～ 2020年10月31日の間**に、当院で手術を受けた患者さん

※データの収集は終了しております。

【研究の意義】

予定手術件数を限定した状況下で優先して手術が行われた症例の特性データを蓄積することは、今後の状況変化に適した体制作りのため意義があります。

分析結果から手術の専門性に対応した人員の配置や知識並びに技術の蓄積を目指すことで、より安全な周術期管理が出来るのではと考えています。

【研究の目的】

電子化された手術症例の記録は重症度、部位、緊急性を含め大規模な蓄積がなされています。これを分析し、特殊状況での周術期管理体制を向上させることが目的です。

【研究の方法】

この研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認を受け、東京大学大学院医学系研究科・医学部長の許可を受けて実施するものです。**対象患者さんの手術内容、手術部位、手術前の合併症、手術時に得られたデータ（麻酔方法、手術時間、出血量など）**を収集して行います。過去の診療記録を元に行いますので、該当する患者さんの現在・未来の診療内容には全く影響を与えませんし、新たにご負担いただくこともありません。

【個人情報の保護】

　この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

収集されたデータは、解析する前に氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、どなたのものか分からないようにした上で、当研究室において森主絵美が、施錠された部屋の中で鍵のかかるロッカー、および個人情報管理担当者のみ使用できるパスワードロックをかけたパソコン）で厳重に保管します。個人情報は完全に消されてしまうため、この符号を元の氏名等に戻す操作を行うことは出来ません。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局までご連絡ください。**2020年11月30日までにご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせて頂きます。**

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等に発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

2020年11月

【問い合わせ先】

　　東京大学医学部附属病院

　　　　麻酔科・痛みセンター　　　　　　　　　　　　　　　助教　森主　絵美

　　　　麻酔科・痛みセンター　　　　　　　　　　　　　　　科長　内田　寛治

　　　　住所：東京都文京区本郷7-3-1

　　　　電話：03-5800-8668　 FAX：03-5800-8938

　　　　Eメールでのお問い合わせ：MORINUSHIE-ane@h.u-tokyo.ac.jp

uchidak-ane@h.u-tokyo.ac.jp